

MAKINOHARA Life Interview

Part 2

市職員 池田さん(27歳)の場合

長野県木曾町出身の池田さん。

東京暮らしに疑問を持ち、単身で牧之原市へ移住。現在は市役所に勤めながら、サーフィン・バイク・アウトドアといった趣味を満喫しています。

池田さんのとある1日

[仕事の日]

- 6:30 起床(朝日を見ながらコーヒーを飲んで朝食♪)
- 7:50 登庁(市役所で政策に係る業務。先輩や上司から様々なことを教わる。)
- 12:00 昼休憩(午後に向けてゆっくり休む。たまに海岸で昼食)
- 13:00 打合せや会議(近隣市町や県庁へ向かうことも多い)
- 16:00 業務(市役所に残り残務処理をする)
- 17:00 退庁(波が良ければそのまま海へ行ってサーフィン)
- 19:00 帰宅(家事をしながらお酒を飲み、ゆっくり♪)

[休みの日]

- 6:00 起床(すぐサーフィン!海で仲間とコーヒーを飲みながら話す)
- 11:00 昼食(行きつけの喫茶店に行く、もしくは釣った魚をもらってみんなでBBQ♪)
- 13:00 再び海へ(もう1ラウンドサーフィン。時には友人宅でサーフィンの大会映像を見る)
- 16:00 帰宅
- 17:00 バイク(山の方、海の方、ノーブランで走る)
- 19:00 友人の家へ(海の近くの友人宅で家飲み。波が良ければ泊まり、翌日も朝からサーフィン)

Interview “Surfing” 編

Q 牧之原でサーフィン仲間
できましたか?

A 思っていた以上にたくさん
できました(笑)

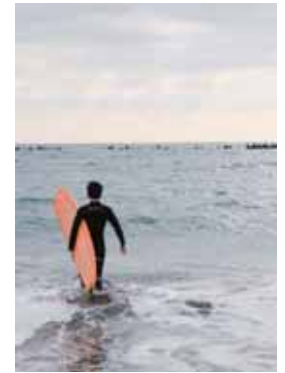
サーフィンを始めたのは、こっちに来てからなんですけど、皆さんすごく気さくな方ばかりで、友人がすぐにできましたね。知り合った方が、また新しい知り合いを紹介してくれる感じで、思っていた以上にたくさん仲間ができました(笑)。海で会うだけでなく、自宅と一緒にサーフィンの動画を見たり、飲みみに

行ったり、すごく仲良くしてもらっています。

Q あなたにとって、
海はどんなところ?

A 僕を受け入れてくれた、
大切な居場所。

職場以外の人間関係は、ほとんど海が与えてくれました。師匠みたいな方たちや、同世代の友達も、皆さん、海がきっかけで出会いました。休みの日の朝、海に行くに必ず誰かしら来ているんです。一緒にコーヒーを飲みながら波を見て一日が始まる、ここは大切な居場所なのだと感じます。



Interview “Work” 編

Q 新しい職場の環境は
どうですか?

A 人も雰囲気も
のんびりしている。

東京にいた頃は、建設現場の管理の仕事をしていました。職場が家から遠く、毎日満員電車で出勤して、帰日も終電でクタクタでした。今は、通勤は車で15分、人も雰囲気ものんびりしているので、自分のペースで仕事ができています。市の職員として、第二のふるさとになったこの街のために何ができるか

を、日夜考えていますね。

Q オン・オフの切り替えは
どうですか?

A 海が僕を
切り替えてくれる感じ。

たまに残業もしますが、忙しいことももちろんあります。それでも、すぐ近くには大好きな海があるし、お気に入りの喫茶店とか、リフレッシュする場所も見つかったので、*仕事に追われている、という感じは少ないです。仕事の日でもたまに海岸で昼食をとることができます(笑)。海が僕の気持ち切り替えてくれる感じですね。

Interview “Hobby” 編

Q サーフィン以外にオススメの
アクティビティは?

A バイク。走るたびに
新しい発見があります。

18歳の頃からバイクが好きで、よく走ります。山の方を走ったり、海の方を走ったり、結構ノーブランなんですけど、走るたびに新しい発見があって面白いんです。牧之原市の冬は雪が降らず天気の良い日が多いので、サーフィンをやるにも、バイクに乗るにもすごく良い所だと思いますね。

Q 新しい趣味を始める
環境としての牧之原は?

A 仲間も環境も十分。
とりあえずやってみる事です。

とても良い環境だと思います。何かを始めたいと思ったら、それを周りに伝えたり、とりあえず参加してみたり、何かしらアクションを起こせば、不思議と面白い人となつていけることができるんですよ。気づいたら、アパートの大家さんから畑を借りていたり、一人でキャンプができるまでアウトドアが上達していたり(笑)。趣味を見つけるための、仲間も環境も十分揃っていると思います。あとは自分のやる気次第ですね。

